

# 読書のすゝめ

その31 H 30 1 / 17

## 芥川賞・直木賞発表

日本文学振興会は1月16日、第158回芥川賞・直木賞の受賞作を発表し、芥川賞は、新人女性二人のダブル受賞となりました。受賞作品は他の候補作とともに今月末には図書館に入ります。

【芥川賞】『百年泥』（石井遊佳）

『おらおらでひとりいぐも』（若竹千佐子）

【直木賞】『銀河鉄道の父』（門井慶喜）



### 『銀河鉄道の父』（門井慶喜）講談社

父の信念とは異なる信仰への目覚めや最愛の妹トシとの死別など、決して長くはないが紆余曲折に満ちた宮沢賢治の生涯を、地元の名士であり、熱心な浄土真宗信者でもあった父・政次郎の視点から描かれている。反抗期を迎えた賢治に『成長とは、打たれると知りつつ出る杭になることなのかもしれない』と思い、『子供のやることは、叱るより、不問に付すほうが心の燃料が要る』と、『父でありすぎた父』政次郎の姿に、読者の立場による読み方をうながす一冊。



### 『おらおらでひとりいぐも』（若竹千佐子）河出書房新社

書名は宮沢賢治の詩「永訣の朝」「Lora Orade Shitor-eano」の言葉から取り、それを「悲しみのうちに死ぬ」の意ではなく、一人で生きていく「自由」と「意欲」に結びつけた。

捨てた故郷、疎遠になった息子と娘、そして亡き夫への愛。震えるような悲しみの果てに、桃子さんがたどりに着いたものとは―74歳、ひとり暮らしの桃子さん。おらの今は、こわいものなし！方言によるリズムあふれる文体で「老いの境地」を描いた、青春小説の対極、玄冬小説！（\*玄冬小説とは…歳をとるのも悪くない、と思えるような小説のこと。）



### 『百年泥』（石井遊佳）新潮社

自分の意思に反してインド・チェンナイで日本語教師をすることになった女性が、現地で百年に一度という大洪水に見舞われ、川の濁流に押し流され堆積した泥から現れた品々にまつわる出来事を追体験するという内容。

二〇一五年の十二月にチェンナイで起った大洪水をモデルに書かれた作品で、著者の実体験を踏まえて書かれています。著者は現在も南インドの東側、ベンガル湾に面するチェンナイ市に住んでいます。



※3年次生は学年末考査後は自由登校となりますが、現在借りている本はいったん**今月中に返却**をお願いします。

自由登校期間中の図書館利用は可能です。課題の提出の参考文献などが必要な場合、貸出しますので担当教員に相談してください。

※図書の購入は3月まで可能ですが、年度内受け入れのため3月分は5日で締め切りますので、希望図書は早めに申し出てください。

